

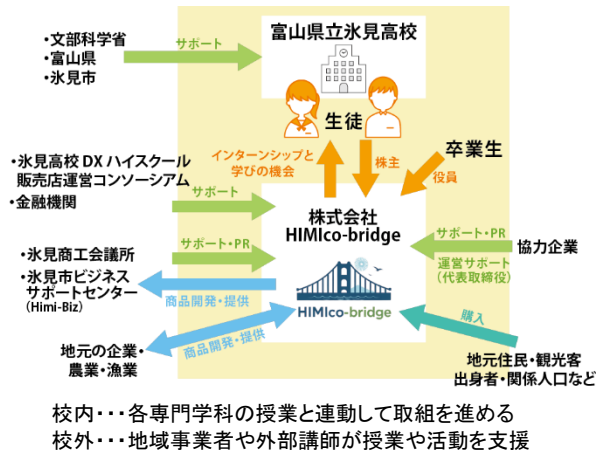
取組概要

- 富山県立氷見高等学校では、生徒主体で株式会社「HIMico-bridge」を設立し、氷見市伊勢大町に無人で入店、決済ができる先進的なデジタル無人販売店を開店。地域や企業と連携した起業体験活動を実施している。
- 農業科学科・海洋科学科・ビジネス科・生活福祉科がそれぞれの専門性を活かして一体となって取り組んでいる。商品企画や販売、店舗運営などを生徒自らがを行い、実社会と結びついた学びを実現している。
- 学校・企業・行政・地域が連携し、高校生の挑戦を地域全体で支える仕組みづくりを進めている。

モデルの構築

実施体制

生徒が、「生産者」「株主」「社員」の役割を担う



取組内容

- ① 地域との協働による探究学習「未来講座HIMI学」(教育課程では総合的探究の時間の活用)等を活用して、地域の社会人、事業者、行政職員等と連携しての地域課題解決に対する取り組みで、地域の事業者等との関係を構築。(令和2年度より)
- ② ①の事業(授業)の中で、地域課題型の商品開発が、様々に行われた。(JTBB「るるる氷見」発刊/北日本新聞社「ひみ三昧」メニュー開発/氷見産キウイの「焼き肉のたれ」開発/稲積梅での「ゼリー」開発/イタセンプラの菓子やかまぼこなど、多数の商品開発実績)
- ③ 職業系専門学科、各学科でのオリジナル商品の開発(例:ウニの養殖による課題解決と商品開発/未利用魚の煮つけ/きゅうりの漬物等)
- ④ 職業系専門学科(農業科学科、海洋科学科、ビジネス科、生活福祉科)の横連携による商品開発、取り組み(魚の残滓を活用した肥料開発/AUTAMUN IN 氷見などの販売店活動)
- ⑤ ①～④の取り組みを、デジタル無人販売店で展開する構想を文科省DXハイスクールに応募・採択。(令和7年度)
- ⑥ 氷見高校のオリジナルの取り組みを、株式会社という一つのプラットフォームに載せ、起業について学ぶことで、これまでの学びをより「社会に繋がる学びへ」と展開するために、市内青年実業家とコラボしての株式会社「HIMico-bridge」の設立。
- ⑦ 令和7年度は、⑤の文科省DXハイスクール事業も活用し、委託事業者によるデジタル無人販売店運営に関する専門的知識を学ぶ。活用した講座は、1、2年の各専門学科における「総合実習」や「課題研究」の授業を活用して、のべ34時間の講座を開催した。
- ⑧ 氷見駅近くのスーパー跡地をデジタル無人販売店として、改装、施設設備を整えて、2026年2月にプレオープン、4月にグランドオープンの予定である。
- ⑨ 生徒・保護者は、4月の増資のタイミングで、任意に株主として、出資(一株2,000円)で出資する予定である。その他、市当局、金融機関、市内事業者等で形成するコンソーシアム各社にも出資を依頼済みで、2026年4月に参画の予定である。

普及するための取組

- 株式会社設立や店舗開設を機にイベントを開催し、地域住民や企業、行政関係者との意見交換やパネルディスカッションを実施。
- 株主総会の公開やWeb等での情報発信を通じて活動内容を広く共有し、地域と学校が連携した教育活動として取組の理解と参加の広がりを図っている。
- 今後は各学科それぞれが、デジタル無人販売店の振興につながる企画を、定期的実施する予定。
【農業科学科】・・・花の寄せ植え教室/野菜の育て方講座
【海洋科学科】・・・魚のさばき方、調理教室
【ビジネス科】・・・地元食材などの地元資源を有効活用した商品やサービスの紹介
【生活福祉科】・・・高齢者向けスマートフォン講座

本事業による成果

- 課題発見力や企画力、ICT活用力、コミュニケーション力など、社会で必要とされる実践的な力が育まれた。
- 会社運営や販売活動を経験することで、自ら考え行動する主体的な姿勢が見られるようになった。
- 地域事業者との協働による商品企画や販売企画を通じて、生徒が地域課題を自分事として捉える姿勢が育まれた。
- 学校・企業・行政・地域が連携することで、高校生の挑戦を地域全体で支える体制が生まれ、学校の学びが地域社会へ広がる取組となっている。